

補助事業成果報告書

法人番号	041005	法人名	朴沢学園	学校名	仙台大学
内定番号	18W0004	補助項目	国際化推進		
教育研究課題名	パラオ共和国における介護予防事業の指導・推進を通じた国際化教育				
1. 補助事業の取組状況（500字以内）					
<p>当該事業は中高年者層に多くの糖尿病患者を抱えるパラオ共和国の国民を対象に介護予防事業（お年寄りを寝たきりにしないための身体運動プログラム）を3年度にわたり無償で奉仕・実践するのが主な目的である。初年度は平成18年8月18日から8日間、本学の教員5名・職員4名・学生5名の計14名がパラオを訪問した。本格的な事業プログラムは21日から3日間、パラオ諸島内の会場6カ所で島民計86人（9割が55歳以上）を対象に行った。各会場ではまず個別に身長、体重、踏み台昇降、開脚片足立ちなどの事前測定を行った。次いで操体運動、筋力トレーニングなど各種運動プログラムを指導、住民に自ら実践してもらった。さらに教員（メディカルドクター）による健康講話を行い、指導プログラムを毎日実践するよう奨励した。初年度の事前測定結果は全て個別に記録し、2年度以降、同一者を対象とする追跡測定を行い、プログラムの実践成果を検証する計画である。また今回の事業スタートに先立ち本学はパラオ有線テレビ放送会社の要請を受け本学方式の運動プログラム・ビデオを英語版で制作して寄贈、昨年8月以降、パラオ全土で連日放映されている。</p>					
2. 補助事業の成果（500字以内）					
<p>当該事業の成果は幾つか挙げられる。まず初年度の介護予防プログラムを実践したパラオでの島民に対する反響は大きい。とりわけ実践指導に参加した80人余の島民のうち、肥満あるいは身体活動能力の不足を本学スタッフから指摘された人が9割を超えただけに、今なお有線テレビで連日放映される実践用ビデオを見ながら運動プログラムを日課としている島民が多いといわれる。現地政府関係者はこの成果に着目、パラオの若者を対象とした介護予防スタッフ養成施設を自国内に建設したいとして、新たに本学に対し技術指導を要請している。</p> <p>また今回の事業展開で大きな収穫となったのは、運動プログラムの補助スタッフを務めた引率学生5人に及ぼした教育的効果である。語学のハンディーを克服しながら現地高齢者と対話を重ね、さまざまな人間的交流をした体験は、とりわけ国際化教育にとって貴重で有意義なものとなった。また、今回のプログラム実践の様子は現地新聞2紙にも大きく伝えられた。このメディア効果も、当該事業の達成を目指す本学の教職員・学生にとっては、今後につながる大きな励みとなっている。</p>					